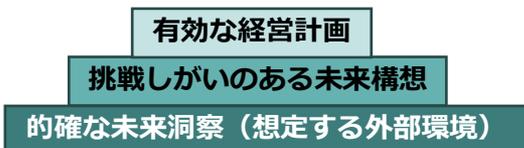


DXに取り組むものづくり企業の中期事業計画策定の手引書

有効な経営計画策定の前提条件



「未来洞察を応用した外部環境分析」
(2021年度)

中小企業における現状

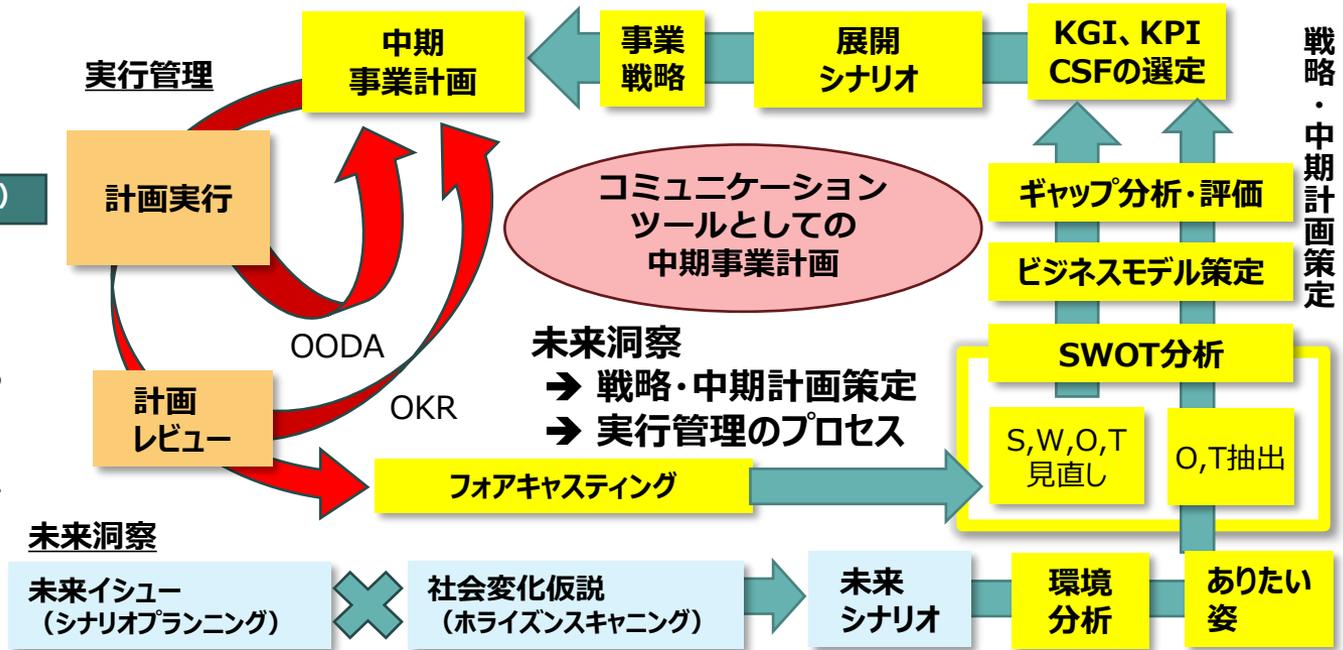
- 各種の補助金や助成金、融資を受けるために、金融機関等の指導を受けて次年度以降の財務諸表を作成

↓
中期事業計画を作ったことにしたが、…経営には有効に活用できていない…

↓
中期事業計画策定の勘所を明確にする！

- DX認定事業者の調査
DX認定事業者764社
(2023年8月時点)
うち、中小製造業36社の認定申請書を閲覧し、中期計画を有効活用しているような事例を抽出し、訪問調査を申し入れ

柴田科学株式会社	精密機械、従業員数367名
武州工業株式会社	金属製品、従業員数150名
株式会社今野製作所	金属製品、従業員数38名、(DX認定以外)



柴田科学 「中期事業計画に関して各部門のレビューと進捗確認を毎月行い、常務会で成果を確認し、年2回の幹部社員会で共有している。常務会は週次開催され、重要な問題があれば臨時に取り上げる。」	武州工業 「バックキャストが定着している。将来のありたい姿を示せば、従業員それぞれが、自分の計画を考える。」 「下請事業なので、生産計画はお客様次第。個人商店の集まりのように、各従業員が自分の事業を計画する。」
今野製作所 「PDCAサイクルに基づく年次のレビューのほか、月次のマネージャ会議、必要都度の個別ミーティングで進捗管理する。中期計画に基づいて、判断とレビューを繰り返す。」	今野製作所 「会社としての中期計画を社長が策定し、各部リーダーが年度計画の方針を作り、全体会議でブレイクダウンする。」
武州工業 「1968年から55年間、黒字決算を継続中。製造部員のKPIを『時間当たり出来高』に統一し、評価指標を明確にした。改善効果は、会社と従業員で折半。」	柴田科学 「基本戦略を、既存主力ビジネスと新規事業の開発スピードアップと部品調達の安定供給とし、それを支える基盤として、新棟建設、DX推進、人財の三点を挙げた。」